

絹本墨画 昭和三十〜四十年代
本紙二五・一×三三・二

児玉希望（一八九八〜一九七一）は広島に生まれ、後に上京して川合玉堂（一八七三〜一九五七）に師事した。若い頃から富士の写生に度々出かけたが、富士の荘厳端麗な山容を描くには自分の力は遠く及ばないとして、一時期は富士図の依頼は一切受け付けなかったという（児玉希望「富士を描く」『美之国』第十五卷第十二号、一九三九年）。しかしその後納得いくまで富士を描き、紀元二千六百年を目前に控えた昭和十四年十一月には日本橋三越において「富嶽十題展」を開催した。本図は、玉堂ゆずりのうるおいのある墨調による富士図である。

30 富士 前田青邨 一面

紙本金地着色 昭和四十年代
本紙二七・二×二四・一

歴史画を得意とした前田青邨（一八八五〜一九七七）には珍しい富士図である。おらかなタッチで表された富士を背景に千鳥が空を渡っている。ムラを活かした彩色もあいまって、柔和で親しみやすい小品に仕上がっている。青邨は、昭和三十四年より香淳皇后の日本画のご指導にあたったことでも知られる。香淳皇后の御遺品。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

富士 ―山を写し、山に想う―

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 46

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十年三月二十二日発行

© 2008 The Museum of the Imperial Collections